
ギャラクティカマッスル

宇ノ鹿 すい

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ギャラクティカマッスル

【Nコード】

N8151M

【作者名】

宇ノ鹿 すい

【あらすじ】

世界が終了した。おそまつさまです

世界が終了してしまった。

いったいどうしたっていうんだ！

何だって世界が消滅するのか僕には理解出来ないよ兄さん！

すると兄さんは立ち上がって僕に奇怪なポーズを見せ付けてきた。

「な、な、な」

僕は慄いて三步後ろに下がったが、兄は四歩前にポーズを見せ付けてくるので、僕に脅威はマッスルマッスルだった。

ちなみにマッスルマッスルというのは合言葉である。どういうことかと言うと、僕と兄さんの合言葉ではなくて、ある朝、学校に行く途中に出会った外国人のギャラクティカに教わったのだが、ギャラクティカというの名前が大袈裟だったので僕は彼のことを笑ったものだった。

ギャラクティカは笑われ慣れていたらしく、「OH Y E A R」とあんまり傷ついていなかったので僕は驚愕したのだが、マッスルマッスルはしっかりと伝承されたのであった。

そうこうしている内に兄さんは僕に近づいていた。今や目と鼻のマッスル。このままではどうなってしまうのだろうか、僕にはまるで理解出来ないよ困ったなあ。つってたら、ギャラクティカが助けに現れた。

「OH Y E A R」

彼は兄さんにケツの穴を見せびらかしながら怒り奮闘の様子を包み隠さないで、兄さんは思わず逃げ出していった。屁をこくことでマッシブバースト逃走を試みたのだそうだ。可哀想な兄さん。

しかし僕も他人事ではない。ギャラクティカが僕に向かってケツを突き出し始めたものだから、僕も素早く逃げる必要があったとい

うわけだ。

だが、僕にだって秘訣がある。そう、僕には必殺技があった。マッスルマッスルではない。だが、必殺技だ。

「うおおお」

ブチかました。ギャラクティカは僕の必殺技によって怯んでしまい、地に平伏した。

「O、O、H H H H……」

ギャラクティカは地球を旅立ち、二度と僕の元には帰ってこない。その代わりに彼は自らの子供たちを地球に残していった。それから十年。

ギャラクティカの子孫は蔓延し、地球は、世界は、終了した。悲しい話だ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8151m/>

ギャラクティカマッスル

2011年11月13日21時30分発行